

福島県被災者同行会

- 発 足 東日本大震災後、さわやか福祉財団が旧グランドプリンス赤坂避難所にて行った相談活動が基となり、2011年8月21日に「福島県被災者同行会」を発足した。
- 目 的 ・東京都内及び近郊に避難した福島県民同士のふれあい活動により、元の居住先ごとの避難者ネットワークづくり、それを前提とした避難地での避難者同士のネットワークづくり、避難地の地元住民も含めた交流、ふれあい、助け合いを推進する。

・相互扶助の精神の基、会員同士の情報交換や助け合いにより、生活上の諸問題を自立的に解決していく。
- 会 員 東日本大震災等により福島県より東京都及びその近郊に避難してきた県人、家族。
- | | | | | |
|-------|---------------|-----|-------|---------|
| ■ 構 成 | 同行会会員 | 世帯数 | 309世帯 | |
| | | 会員数 | 560名 | <7/5現在> |
| | 世話人会 | | 7名 | |
| | 事務局（さわやか福祉財団） | | 2名 | |
- 活動の経緯
<2011年度>

東京都、災害復興まちづくり支援機構（弁護士・技術士など15土業の専門家による支援組織）、株式会社パソナ等と連携を取りながら、福島県から東京都に避難してきた人々同士のつながりづくりを目的に「福島県被災者同行会」を結成。さわやか福祉財団が事務局を担い、都内で全体交流会、地域交流会・サロン等を計14回実施。同行会ニュースを14回発行した（同行会会員・3月末で約500名）。併せて全体交流会では、専門家と連携して原発関係・就業の個別相談を実施した。また、3月25日には、「避難者の孤立を見落とすな！県外避難者支援の現状と課題」フォーラムを東京・八重洲で実施し、支援活動報告や専門家と自治体関係者等を交えてのパネルディスカッションを通じて、個人情報保護法への問題提起や、他地域への取り組みにつながる機会となった。
- <2012年度>

前年度に引き続き、東京都、災害復興まちづくり支援機構、株式会社パソナ等と連携して、福島県から東京都に避難してきた住民同士のつながりづくりや、出身元行政関係者と住民との意見交換及び専門家との個別相談の場づくりとし

でのフォーラム、交流会を行った。開催にあたっては、相談ブースを設けて原発被害の賠償問題や就業等の個別相談を実施し、また元居住地域に関する情報提供・意見集約を重ねて実施するなど、避難者の孤立と帰還問題を考える取り組みを強力に展開した。

併せて「福島県被災者同行会」（563名／310世帯、3月末）の事務局を引き続き担いながら、会員がより主体的に運営していけるよう「世話人会」を発足させ、ほぼ毎月会合を共に持って活動の内容、方向を話し合う機会とした。また、「同行会ニュース」を会員向けに13回発行、さわやかインストラクターを通じて全国に配布する「わすれな草」を9回発行、専用ブログも開設し、避難者同士のための情報を全国に向けて発信した。フォーラムは計8回（合計576名参加）実施した。

■ 今後の活動課題

「被災市町村行政機関への要望・提言」

避難者の考え・意見をまとめ、被災市町村行政機関へ伝えていく。

「絆・ネットワーク」

避難者が孤立化しないように、より多くの避難者と「絆・ネットワーク」を広げる。

「帰還する、帰還しないなどの情報発信」

被災地域の状況を正確に把握し、避難者に伝え、避難者の今後の生活を判断できる情報を発信していく。

「各地域でのコミュニティづくりと交流」

避難されている各地域での交流を増やす。

「広域連携ネットワークへの参加」

都内を中心に県外避難者支援を行っている団体とのネットワークの構築を進める。